

2005年度総会議事録

日 時：2005年5月17日（火）14時00分～15時15分

場 所：東京大学安田講堂大講堂

参加者数：総会参加票のうち有効票による出席者611名，通常会員の会場出席者96名，合計707名

【総会成立の要件：通常会員現在総数（2005年4月11日現在819名）の過半数以上の出席がなければ成立しない。ただし，総会に出席できない通常会員で，当該議事につき他の出席通常会員に表決を委任した者，および書面によって決議に参加した者は出席とみなす。（定款第38条）】

議 事

1. 開会

多田英夫庶務担当常任理事より総会成立の要件を満たしていることが報告され，総会の開会が宣言された。

2. 議長選出

総会議長に近藤 豊会員（東京大学）を選出した。

3. 理事長挨拶

廣田 勇理事長から次のような挨拶があった。

今大会の参加者は今日までで775名，発表件数は474件と盛況である。今大会の開催を担当した東京大学の実行委員会に感謝する。

第33期の日本気象学会の運営に関する課題について本日は4項目述べたい。最初の2つは対外的な問題である。

大会前に日本・中国・韓国気象学会の共催で東アジア域の大気科学シンポジウムが開かれた。130名を越える研究者が参加して盛況であり，3年毎の開催予定のところ，来年秋に韓国で2回目を開くことになった。今後も国際的な活動を進めていきたい。

次は国内の地球科学分野の発展についてである。これまで関連する各々の分野が個別に活動してきたが，来週の地球惑星科学合同大会でこれらの連合が設立されることになり，より包括的な体制になりつつある。日本気象学会も準備に関わってきた。当学会の活動拠点はあくまでも春季・秋季大会に置いており，連合活動への参加・発言は個人ベースを基本としているが，当該分野の発展のためにこれからも関与していきたい。

残りの2つは部内的な問題である。

まず，大会運営についての問題がある。開催規模

の拡大で経費が増えており，予稿集作成や講演企画担当の献身的な努力も限界となっている。このため，予稿受付のオンライン化や大会発表者の参加費の見直しを検討している。“天気”5月号等で見直し案を会員に周知する。今後会員の意見も聴きながら検討を進めていきたい。

最後に，日本気象学会は2007年に設立125周年を迎える。このため常任理事会の中に古川理事を委員長とする準備委員会を発足させ，記念行事や出版の計画に関する検討を開始した。特に若い世代の会員諸氏には1982年の百周年以降の気象学会の歴史認識を深めることによって新しい発展を目指してもらいたいと願っている。

4. 表彰

(1) 学会賞

学会賞候補者推薦委員会担当の中澤高清算常任理事が選定理由を説明し，廣田 勇理事長から受賞者に賞状並びに賞金・メダルが授与された。受賞者と，受賞対象となった業績は以下の通り。
鶴野伊津志（九州大学応用力学研究所）

アジア域を中心とした物質輸送モデルの開発と応用に関する研究

(2) 藤原賞

藤原賞候補者推薦委員会担当の木田秀次常任理事が選定理由を説明し，廣田 勇理事長から受賞者に賞状並びに賞金・メダルが授与された。受賞者と，受賞対象となった業績は以下の通り。
倉嶋 厚（気象解説者，著述業）

季節変化と天気の状態に関する研究および気象解説による気象学・気候学の普及における功績
二宮洸三（（独）海洋研究開発機構 地球フロンティア研究センター）

気象擾乱の多スケール階層構造に関する研究および気象基礎教育の普及における功績

5. 2005年度総会議案審議

(1) 議案1：2004年度事業報告

多田英夫庶務担当常任理事から，会員種別の見直しが行われたこと，電子レター誌“SOLA”が創刊されたこと，日本・中国・韓国の気象学会の交流が進んでいること，地球惑星科学連合設立の準備に関わってきたこと等の事業報告が行われた。

(2) 議案2：2004年度会計報告

板東恭子会計担当常任理事から、公益会計で419万円の赤字、収益会計で138万円の黒字、全体として281万円の赤字であること等の会計報告が行われた。

(3) 議案3：2004年度監査報告

高野 功監事から、収支、会員数の減少、会員制度の見直し、国際学术交流、電子レター誌の創刊、事務局職員の退職引当金等に関する監査の結果が報告された。

(4) 議案4：日本気象学会細則の一部改定

木田秀次常任理事から細則第19条の改定が提案され、学会出版物の委員会の委員長に、理事に限らず適任の人が就くことができる仕組みを作り、学会の人材が活動できる場を拡大するためという提案理由が説明された。

(5) 議案5：理事の辞任に伴う後任の推薦

理事の辞任に伴い、後任として理事会から推薦のあった4名の理事候補者について、廣田 勇理事長から推薦理由が説明された。また、山内 恭会員が健康上の理由で全国区理事を辞任したことが報告された。

(6) 議案6：2005年度事業計画（案）

多田英夫庶務担当常任理事から、2007年度の学会設立125周年に向けた準備を始めること、国際学术交流の一環として日本・中国・韓国の気象学会共催によるシンポジウムを開催すること、電子レター誌“SOLA”の充実・発展に努めること、大会の開催に関して講演予稿集や参加費の見直しを進めること等の事業計画が提案された。

(7) 議案7：2005年度収支予算（案）

板東恭子会計担当常任理事から、標記予算案が提案され、会員数の減少を反映した案となっていること、支部交付金を増額したこと、収入減の対策とし

て気象研究ノートの発刊増や機関誌の印刷費・郵送費の見直しに加え、人件費や事務局関連経費の縮減等を盛り込んでいることが説明された。

(8) 質疑応答

議案1（2004年度事業報告）について、2004年度春季大会に合わせて地球環境問題委員会が行った公開講演会は意義深いものであり、これを記載すべきではなかったかというコメントがあった。また、議案6（2005年度事業計画）に次回の日中韓気象学会合同シンポジウムの記載がないという指摘に対し、今回は2006年の秋との説明があった。議案7（2005年度収支予算案）に関して収入減対策の詳細について質問があり、郵送方法の見直しや印刷業者の見直しを行ったこと等が説明された。

6. 採択

議案1～7について、委任状も含め賛成多数で承認された。

7. 議事録署名人の指名

議事録署名人に松本 淳会員（東京大学）と小池真会員（東京大学）を指名したところ、異議なく承認された。

8. 議長解任

近藤 豊議長により、総会の議事運営に関する出席者の協力に感謝する旨の挨拶があり、議長は解任された。

9. 閉会

多田英夫庶務担当常任理事により総会の閉会が宣言された。

以上の議事録の通り相違ありません。

平成17年6月13日

総会議長 近藤 豊 印

出席者代表 松本 淳 印

出席者代表 小池 真 印